

令和7年度 自己評価・学校関係者報告書

令和7年 5月 1日
亀田幼稚園

1. 本園の教育目標

「自由にのびのび大きく育てたい」
「お友達と協調し元気に仲良く沢山遊べる子」

2. 本年度重点的に取り組む目標

- ・保護者及び地域との連携強化と開かれた園づくり
- ・音楽活動を通じた豊かな感性と表現力の育成
- ・英語活動を通じた多文化理解とコミュニケーション力の基礎づくり
- ・教職員の専門性向上と保育の質の充実
- ・ICT活用による業務改善と情報共有の推進
- ・災害・防犯対策及び安全管理体制の強化

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(評価 A・十分に成果があった B・成果があった C・少し成果があった D・改善すべきである)

	評価項目	評価	取り組み状況
1	・保護者及び地域との連携強化と開かれた園づくり	A	運動会・お遊戯会・音楽発表会・作品展等を通じて保護者参加の機会を積極的に設けた。また地域との交流活動や卒園児との関わりを継続し、園の教育活動への理解と協力を深めることができた。
2	・英語活動を通じた多文化理解とコミュニケーション力の基礎づくり	A	ネイティブ講師との活動を通じて、子どもたちは英語を身近なものとして楽しみながら学ぶことができた。歌やゲームを取り入れた活動により、外国語や異文化への興味・関心を高めることができた。
3	・教職員の専門性向上と保育の質の充実	B	園内研修や外部研修への参加を積極的に行い、学びを職員間で共有した。特に子どもの主体性や探究活動を支える保育について理解を深め、職員全体の保育力向上につながった。
4	・ICT活用による業務改善と情報共有の推進	A	保育記録や写真管理、保護者への情報発信等にICTを活用し、業務の効率化と情報共有の充実を図った。職員間の連携が円滑になり、保育の質向上につながった。
5	・災害・防犯対策及び安全管理体制の強化	A	消防署・警察署等と連携した訓練を実施するとともに、施設設備の点検や避難計画の見直しを行った。子ども・職員ともに防災・防犯意識の向上が図られ、安全な園運営につながった。

4. 総合的な評価結果

(評価 A・十分に成果があった B・成果があった C・少し成果があった D・改善すべきである)

評価	理由
A	本年度は、園の教育目標の実現に向けて重点目標を中心に教育活動を展開した。保護者や地域との連携を深めながら、子どもたちが主体的に活動へ取り組める環境づくりを行い、豊かな感性や表現力、協調性を育むことができた。 また、日々の活動や行事を通して、子どもたちは友達と関わりながら意欲的に取り組む姿が見られ、達成感や自己肯定感を感じながら成長する様子が見られた。 教職員においても、研修や情報共有を通じて保育の質向上を図るとともに、安全管理やICT活用についても継続的に取り組み、園全体として教育環境の充実につなげることができた。 以上のことから、本年度の教育活動は十分な成果を上げたものと評価する。

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	一人ひとりに応じた支援体制	子どもの発達や個性に応じた支援が行えるよう、職員間の情報共有を充実させるとともに、必要に応じて専門機関との連携を強化する。
2	保護者・地域との協働の深化	園の教育活動への理解をより深めてもらうため、保護者との対話や情報発信を充実させ、地域との交流活動も継続していく。

3	探究的な学びの充実	音楽活動をはじめとする様々な体験活動を通して、子どもたちが主体的に考え、試し、表現する探究的な学びの環境づくりを推進する。
---	-----------	---

6. 学校関係者評価委員会の評価

本年度も教育目標に基づき、子どもたち一人ひとりを大切にされた保育が実践されていた。日々の保育や行事を通して、子どもたちが主体的に活動へ参加し、友達との関わりの中で協調性や豊かな表現力を育てている姿が見られた。

また、保護者参加型の行事や地域との交流活動を通して、園と家庭・地域とのつながりがより深まっていることが評価できる。教職員においても研修や情報共有を積極的に行い、保育の質向上に努めているほか、ICT活用についても継続的な改善が図られている。

さらに、安全管理や教育環境の整備にも丁寧に取り組まれており、安心して園生活を送ることのできる環境づくりが進められている。

今後は、個別支援の充実や子育て支援への対応など、新たな課題にも積極的に取り組みながら、亀田幼稚園らしい特色ある教育活動をさらに発展させていくことを期待する